

「習志野きらっと2014」に参加しました 入賞は逃すも満足感の爽やかな顔、顔

今年も、夏を彩る「習志野きらっと2014」に、当国際交流協会チームがサンバ部門に参加。今年のチームは昨年より人数が少ないものの、広報青年部 NI-Youth の若者を中心に、日本語教室に通う外国人、当協会員合わせ平均年齢〇〇歳という男女のチーム編成となりました。

今年は、第21回目でさらに市制施行60周年ということもあり、昨年の屈辱を果たすべく優勝を目指し16時30分に事務局に集合し、軽食を済ませた後、サンロード6階の通路において、日本語教室部会の鎌田先生指導のもと早速練習に入りました。

普段使わない筋肉を呼び覚まし、チーム隊列、アピール部分等を綿密に話し合いながら曲に合わせ、幾度も幾度も上がらない足を無理矢理押し上げ、練習の甲斐あってリズムに合わせ踊れるようになりましたが、本番までの体力が残っていたかは……。

踊りが完成し(?)、次のアピール点である衣装についても市民まつり予算が少ない中、タヒチアンダンスのモア(スカート)を全員で手作りしました。材料は梱包用の黄色のテープ、そのままでは踊りが映えないとの意見のもと、細かく紐を裂く作業から始まりました

が、これが意外と大変。フォークを使う人、櫛を使う人とそれぞれでしたが、最後には見かねた他のチームの方のお力も借りることに。

なんとか集合時間に間に合い、上下黒の衣装に、黄色のモアを身に着け、カーボーイハットをかぶり、手には光る棒、中にはお祭り用眼鏡をかける人も。見た目で入賞か?との自信のもと、全員での記念撮影を行いいざ集合場所へ。自信のあった衣装も、集合地点へ行く時の他チームの衣装の豪華さには、目を見張るばかり。お金をかけているなあー。

いざスタート。今井部会長が持つ看板に続き、我がチームの出番。周りをNI-Youthの若者が囲み、中に当協会員の編成でしたが、市役所前交差点では、既に息切れ。審査員席(市民課建物)の前で最後の力を振り絞り、上がらない足を無理して押し上げ、グランドに入りホット一息。

いよいよ審査発表、念願の入賞を期待し皆そわそわ。いざ発表が進み、呼ばれるたびにため息、最後まで結局呼ばれずじまいでしたが、そこにはやり遂げた満足感の爽やかな顔、顔。来年こそはと皆で誓い、今年のまつりの終焉となりました。

(報告 齊藤富男 事務局長)



サンバのリズムに合わせて行進するチーム＝小島明撮影